

**令和 6 年度に係る
公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果**

令和 7 年 8 月

公立大学法人福知山公立大学評価委員会

目次

I	令和6事業年度の業務実績評価について……………	1
II	評価結果……………	
1	全体評価……………	3
2	大項目別評価……………	5

《公立大学法人福知山公立大学評価委員会委員》

区分	職 名 等	氏 名
委員長	京都府立大学名誉教授	青山 公三 あおやま こうぞう
委員長職務代理	大阪公立大学 本部事務機 構 次長	大久保 正明 おおくぼ まさあき
委員	社会保険労務士・行政書士 菊田学美事務所 所長	菊田 学美 きくた まなみ
委員	税理士法人藤原事務所 代表社員	藤原 健 ふじわら たけし
委員	学校法人淑徳学林 理事長	山口 剛 やまぐち つよし

I 令和6年度に係る業務実績評価について

公立大学法人福知山公立大学評価委員会は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2第3項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）の令和6年度に係る業務の実績について、「公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価方針」、「公立大学法人福知山公立大学に関する年度評価実施要領」及び「公立大学法人福知山公立大学に関する中期目標評価実施要領」により評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- （1）評価は、法人の教育研究の特性や運営の自主性、自立性に配慮して行うものとする。
- （2）評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の組織・業務運営等に関して総合的に行い、改善すべき点等を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資するものとする。
- （3）評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- （4）評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取り組み状況やその成果をわかりやすく示し、市民への説明責任を果たすものとする。
- （5）評価方法については、必要に応じて工夫・改善を行うものとする。

2 評価方法

- （1）評価は、法人による自己評価を聴取した上で行った。
- （2）評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行った。
- （3）「項目別評価」は、「小項目別評価」及び「大項目別評価」により行った。

小項目別評価

年度計画の記載項目（小項目）ごとの進捗状況又は実施状況を確認し、評価を行った。

評価	進捗状況（実施状況）
4	年度計画を上回って実施している（上回る実施状況）
3	年度計画を順調に実施している（十分な若しくは概ね実施）
2	年度計画を十分に実施できていない（下回る若しくは実施が不十分）
1	年度計画を大幅に下回っている（特に劣る若しくは実施していない）

大項目別評価

年度計画の小項目別評価及び特筆すべき事項（以下「特筆事項」という。）を踏まえ、中期計画の事項（以下「大項目」という。）ごとに、当該事業年度における中期計画の進捗状況について、次の4段階により進捗状況を示すとともに、記述式により自己評価した。

(1) 教育に関する目標を達成するための措置
(2) 研究に関する目標を達成するための措置
(3) 地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置
(4) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置
(5) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置
(6) 自己点検・評価及び該当状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置
(7) その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

評価	評価基準	判断の目安
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5以上であり、かつ、評価委員会が「S」と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.5に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「S」相当と認める場合。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.0以上3.5未満であり、かつ、評価委員会が「A」相当と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が3.0に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「A」相当と認める場合。
B	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9以上3.0未満であり、かつ、評価委員会が「B」相当と認める場合。 ・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9に満たないが、主たる業務の進捗状況や特記事項の内容を総合的に勘案して評価委員会が「B」相当と認める場合。
C	中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。	・小項目別評価の各項目の評定の平均値が1.9未満であり、中期計画の達成のためには重大な改善事項があると、評価委員会が認める場合。

全 体 評 価

「項目別評価」の結果を踏まえ、法人の中期計画の達成に向けた業務の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。
B	中期計画の達成のためには進捗が遅れている。
C	中期系威嚇の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

Ⅱ 評価結果

1 全体評価

法人は、教育のまち福知山における「知の拠点」として、地方独立行政法人法（平成15年法律第119号）に基づき、福知山公立大学を設置し、及び管理することにより、総合的な知識と専門的な学術を深く教授研究するとともに、地域協働型教育研究を積極的に展開することにより、地域に根ざし、世界を視野に活躍できる高度な知識及び技能を有する人材を育成し、北近畿地域の持続可能な地域社会の形成と地方創生に寄与することを目的としている。

(1)令和6年度評価結果

令和6年度評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

(2)総評

- 第2期中期計画の3年目の事業年度となる令和6年度実績の特筆すべき事項として
- ①教育の質保証実現のため、外部アセスメントを実施し、結果の分析と報告を行うとともに、入試成績と学業成績（GPA）の相関についても分析するなど、大学全体・学部・学科・科目レベルでの学修成果の把握に努められていること
 - ②学生の積極的な地域活動への参画を後押しするSTL助成金制度を創設されたこと
 - ③地域の災害経験を踏まえ、気象データの可視化や救急車シミュレーターの開発など、実用的で新しい防災技術の向上に寄与している。また、防災士講座や市民向け講座、被災地支援も含め、地域と連携した防災教育・意識向上の取り組みをされたこと
 - ④広報活動では、プレスリリースやSNS、LINE公式アカウント、デジタルサイネージなど多様な媒体を活用し、報道件数やフォロワー数の増加、大学院の認知拡大に成果が見られた。学生ライターの育成や地域連携も評価でき、情報発信力の向上が図られていること
 - ⑤ハラスメントや個人情報保護、研究倫理に関する研修を計画的に実施し、特に研究倫理では受講率・誓約書提出率ともに100%を達成するなど高い遵守意識が見られた。加えて、教職員のコンプライアンス意識向上や新入生へのICT研修も行い、全体として組織的なガバナンス強化されたこと
- などが挙げられる。

以上のような状況や、大項目評価は、2項目が「S」（中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。）、5項目が「A」（中期計画の達成に向け順調に進捗している。）であったことから、総合的に勘案し、全体評価は「A」（中期計画の達成に向け順調に進捗している。）と評価する。

福知山公立大学では、地域連携や文理協働を重視した教育・研究活動が展開されており、特色ある大学づくりが進められている。大学の魅力をより高めることで、志願者の確保に努められたい。
なお年度計画については、可能な限り具体的な計画内容や定量的な計画目標を掲示し、目標に対する成果が明確となるよう努められたい。

【令和6年度 大項目別評価結果】

大項目	大項目 評価	S	A	B	C
		計画を上回って 進捗している	順調に進捗して いる	進捗が遅れてい る	進捗が著しく遅れ ており、重大な改 善事項がある
教育に関する目標を達成するための措置			○		
研究に関する目標を達成するための措置			○		
地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置		○			
業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○		
財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			○		
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置		○			
その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置			○		

2 大項目別評価

第4－1 教育に関する目標を達成するための措置

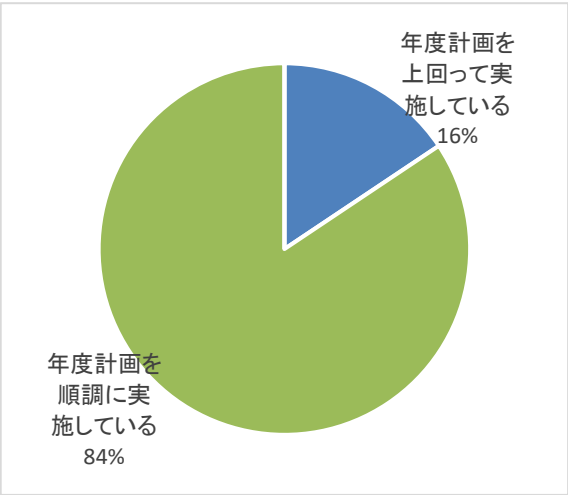
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.2

(1) 評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.2となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	32	5	27	0	0
	構成比(%)	(15.6%)	(84.4%)	(0.0%)	(0.0%)



(2) 概況

(評価できる点等)

- 教育の質保証実現のため、外部アセスメントを実施し、結果の分析と報告を行うとともに、入試成績と学業成績（GPA）の相関についても分析するなど、大学全体・学部・学科・科目レベルでの学修成果の把握に努められていること
- 学生の読書離れが進む中、学生委員による選書や新入生ガイダンスでの図書館利用案内、企画展示を8回実施するなど、積極的な取り組みを進められたこと
- 国際化支援の充実を図るため、短期留学プログラムを複数実施し、地域のALTや海外教員を交えた「英語サロン」や英語スピーチコンテストの開催など様々な施策に取り組んでいること
- 三つのポリシーと2026年度からの新たなカリキュラムを策定されたこと
- 学生の積極的な地域活動への参画を後押しするSTL助成金制度を創設されたこと
- 地域に根差した大学としてインターンシッププログラムを拡充されたこと

(課題となる点等)

- 安定した入学志願者確保のため、近隣高校への出張講義、研究発表会やオープンキャンパスなど、全学的な取り組みが積極的に進められていることは評価できる。しかしながら、特に北近畿地域からの入学者獲得目標（20%）達成に向けては、依然として課題が残されているのが現状である。近隣高等学校との連携強化に向けた具体的施策の構築をはじめ、現状に甘んじることなく、さらなる改善と工夫を重ねていくことが強く望まれる。

第 4－2 研究に関する目標を達成するための措置

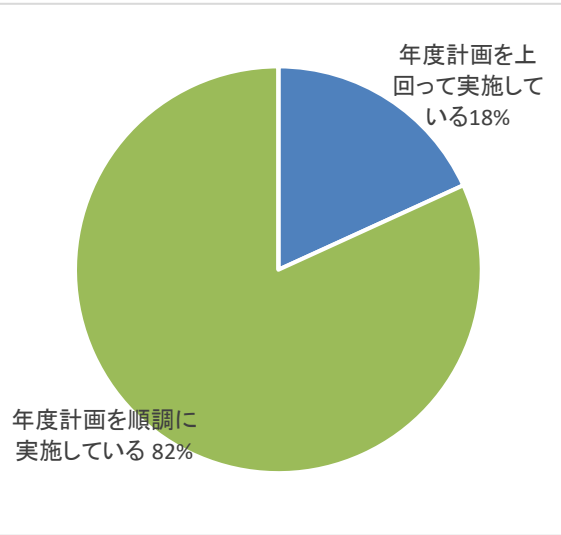
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評価平均
3.2

(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評価平均値が3.2となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	11	2	9	0	0
	構成比(%)	(18.2%)	(81.8%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- 地域の災害経験を踏まえ、気象データの可視化や救急車シミュレーターの開発など、実用的で新しい防災技術の向上に寄与している。また、防災士講座や市民向け講座、被災地支援も含め、地域と連携した防災教育・意識向上の取り組みをされたこと

(課題となる点等)

- 特記事項なし

第 4－3 地域・社会貢献に関する目標を達成するための措置

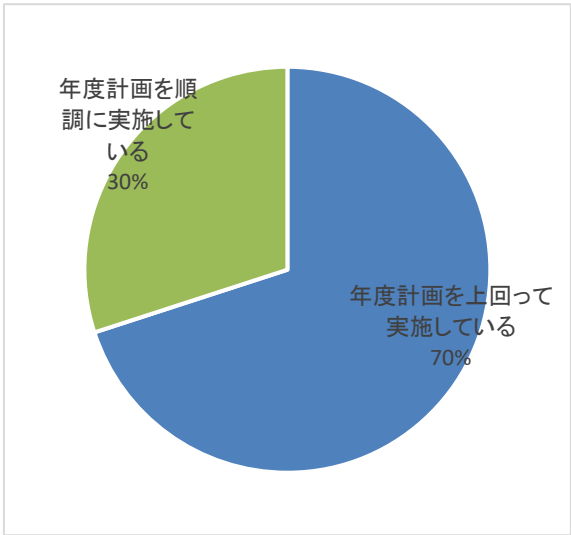
評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。

評定平均
3.7

(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.7となっているため、大項目別評価としては、「S」評価であり、中期計画の達成に向け計画を上回って進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	10	7	3	0	0
	構成比(%)	(70.0%)	(30.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- 広報活動では、プレスリリースやSNS、LINE公式アカウント、デジタルサイネージなど多様な媒体を活用し、報道件数やフォロワー数の増加、大学院の認知拡大に成果が見られた。学生ライターの育成や地域連携も評価でき、情報発信力の向上が図られていること
- NEXT産業創造プログラム修了生を支援する「F-Startup」事業を開始されたこと

(課題となる点等)

- 特記事項なし

第5 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

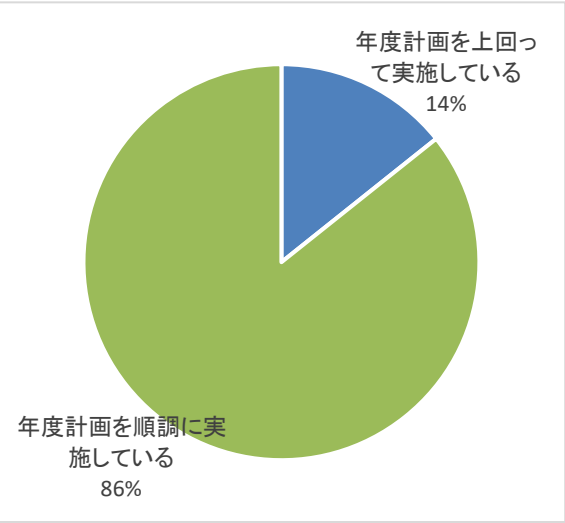
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.1

(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	7	1	6	0	0
	構成比(%)	(14.3%)	(85.7%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- 三つのポリシーや新たなカリキュラムを策定されたこと

(課題となる点等)

- 特記事項なし

第6 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

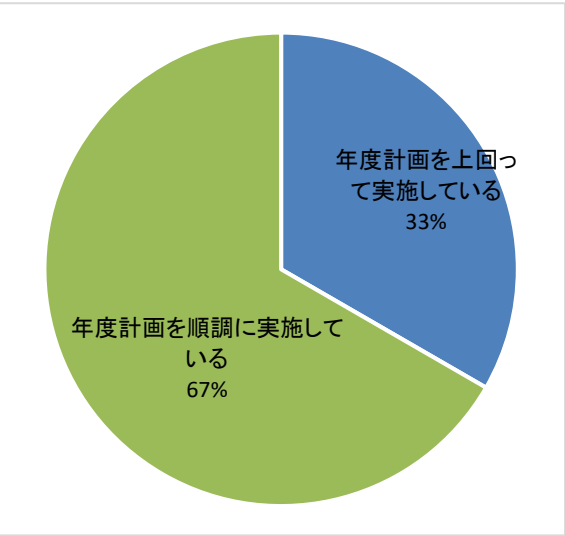
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.3

(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.3となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	6	2	4	0	0
	構成比(%)	(33.3%)	(66.7%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- 食堂施設のネーミングライツのパートナー企業と契約を締結されたこと
- 学内業務の効率化のためのFUJINシステムの準備を整えられたこと

(課題となる点等)

- 外部資金の獲得については目標をもって進めることが望まれる。

第7 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

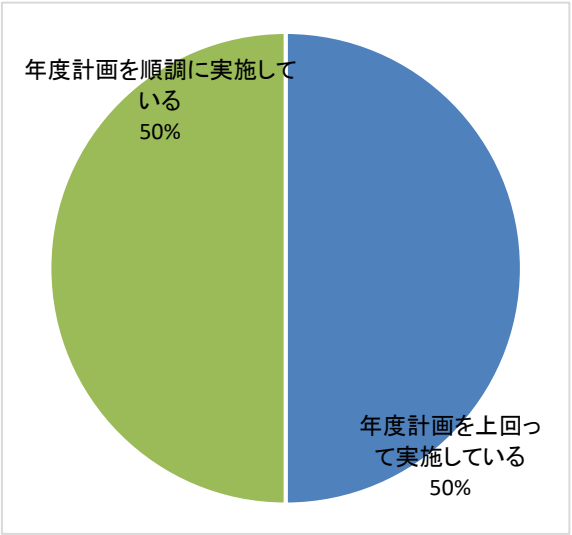
評価	評価基準
S	中期計画の達成に向け計画を上回って進捗している。

評定平均
3.5

(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.5となっているため、大項目別評価としては、「S」評価であり、中期計画の達成に向け計画を上回って進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	2	1	1	0	0
	構成比(%)	(50.0%)	(50.0%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- ハラスメントや個人情報保護、研究倫理に関する研修を計画的に実施し、特に研究倫理では受講率・誓約書提出率ともに100%を達成するなど高い遵守意識が見られた。加えて、教職員のコンプライアンス意識向上や新入生へのICT研修も行い、全体として組織的なガバナンス強化されたこと
- 一般財団法人大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審し適合認定を受けたこと

(課題となる点等)

- 特記事項なし

第8 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

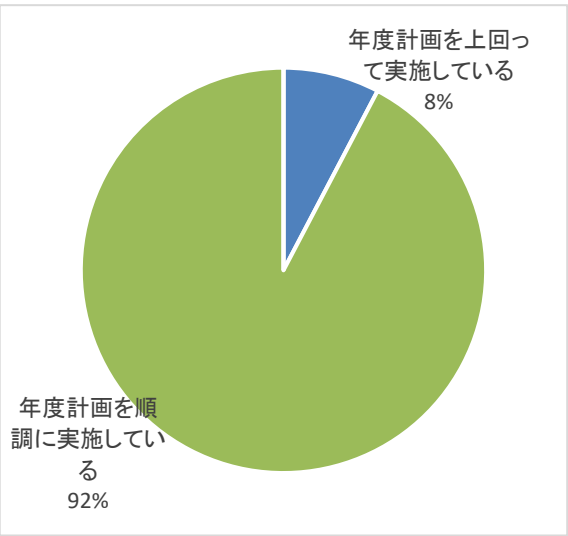
評価	評価基準
A	中期計画の達成に向け順調に進捗している。

評定平均
3.1

(1)評価理由

小項目別評価において、下記の表の評価結果となり、評定平均値が3.1となっているため、大項目別評価としては、「A」評価であり、中期計画の達成に向け順調に進捗していると認められる。

	項目数	4	3	2	1
		年度計画を上回って実施している	年度計画を順調に実施している	年度計画を十分に実施できていない	年度計画を大幅に下回っている
小項目別評価結果	13	1	12	0	0
	構成比(%)	(7.7%)	(92.3%)	(0.0%)	(0.0%)



(2)概況

(評価できる点等)

- 特記事項なし

(課題となる点等)

- 特記事項なし